

日時：令和7年6月4日（水）

第2校時 9:45～10:35

対象：30名

場所：南舎4階

1 単元（題材）名

第1章 古代国家の成立と東アジア 第1節 人類の登場から文明の発生へ
帝国書院『中学生の歴史』p. 18, 19

2. 指導観

1) 単元観

本単元では、人類の誕生から文明の発生、日本列島における国家の形成までの歴史を対象とし、古代社会の特徴や変化の様子について、世界と日本の関連を踏まえて多面的・多角的に考察し理解させることを目標としている。特に、文明や宗教が起こった場所や環境、農耕や牧畜の始まりとその広まり、生活技術や文字の発達、国家や都市の形成、身分制度の出現など、古代文明に共通する特徴に着目させ、地域ごとの違いや共通性を比較させながら、文明成立の背景にある自然的・社会的条件の重要性に気付かせる。また、ギリシャ・ローマの政治制度については、現代の民主主義と比較することで、制度の変遷や現代社会とのつながりを理解させる。さらに、日本列島における国家形成の過程や古代文化の展開について、東アジア世界との関係性や影響を踏まえて捉えさせ、古代の人々の暮らしや政治、文化が他地域との交流の中でどのように変化していったのかを追究させる。以上の学習を通じて、歴史的事象を相互に関連付けて捉え、自らの視点で整理・表現する力を育成することを目標としている。

(1) 古代までの日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界の古代文明や宗教のおこり

(イ) 日本列島における国家形成

(ウ) 律令国家の形成

(エ) 古代の文化と東アジアとの関わり

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目し

て、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(エ)までについて古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

2) 生徒観

1年2組は、男子16名、女子14名で構成されている。社会科の授業では、教師の問いかけに対して積極的に反応し、自分の気づきを発言する姿が多く見られる。特に、ペアやグループ活動など協働的な場面では、友達の意見に触発されて自分の考えを深めようとする姿も見られ、意欲的に取り組む傾向にある。課題への取り組みについても、教師の指示を受けると、集団または個人のいずれかを自ら選択して活動することができており、授業は概ね円滑に進められている。

一方で、発問場面では男子の発言が目立ちやすく、女子が発言しづらい雰囲気になることがある。そのため、学習活動の中で、生徒同士が安心して意見を伝え合えるような工夫が求められる。また、地理的分野で学んだ知識（気候や地形、農業など）を活用する力には個人差があり、歴史的な出来事や背景やつながりを理解する力もまだ十分ではない。

3) 単元および本時の指導上の工夫

本単元では、生徒の発言が活発であるという実態を踏まえ、発問の工夫を通して生徒の思考を深め、主体的・対話的で深い学びの実現を重視する。

例えば、写真や分布図などの資料を提示する際には、「なぜこの場所で文明が生まれたのか」「ここではどのような生活が営まれていたのか」といった問いを設定する。このような問いを通して、生徒の多様な視点からの意見を引き出せるようにする。そして、授業の展開は生徒の発言をもとに柔軟に調整し、双方向的なやりとりを通じて学びを深めていく。

また、学習活動においては、生徒が自らの興味や理解度に応じて活動を選択できるようにし、個別最適な学びの保障を図る。そのために、活動内容には複数の選択肢を用意し、生徒が自分に合った方法で課題に取り組めるように工夫する。さらに、資料の読み取り方や表現方法にもバリエーションを持たせ、学習形態も個人・ペア・グループなど柔軟に選べるようにすることで、生徒の特性や学習ペースに応じた学びの場を構成する。

加えて、課題解決に向けたヒントや補助資料は配布プリント上に明示し、生徒が自身の学習状況に応じて主体的に活用できるようにする。このようにして、教師の説明に依存せず、生徒自身が資料や動画を手がかりに思考し、答えにたどり着けるよう支援する。

一方で、生徒同士の質疑応答や学び合いを活性化するためには、対話が自然に生まれるような問いや課題の設定が不可欠である。たとえば、「聞いてみたい」「話してみたい」と思えるような問いを意識的に用意することで、生徒の思考が活性化し、意見の交流が生まれやすくなる。さらに、注目すべき意見や視点については色分けして黒板やスライド上に提示し、生徒がそれらを手がかりにして思考を深められるようにする。

そのうえで、安心して発言できる環境づくりにも配慮する必要がある。教師は肯定的なフィードバックを積極的に行い、いきなり全体発表に進むのではなく、まずペアや小グループで意見を共有する時間を確保する。これにより、発言のハードルを下げ、すべての生徒が自分の考えをもてるようにすることができる。

また、活動中は教師が教室内を巡回し、生徒の学習状況を把握しながら、必要に応じてコメントや問い返しを行い、思考の方向づけや再構成を支援する。そして、理解が進んでいる生徒には「友達に教えてあげてみよう」「教科書を見ずに説明してみよう」といった声かけを行い、自然な形でリーダーシップや支援の役割を担わせる。このような工夫によって、教師主導ではなく、生徒主導の授業となるように配慮し、生徒同士の質疑応答が展開されることを目指す。

さらに、発展的な学びを希望する生徒に対しては、課題の発展版や次の探究課題を設定し、思考力や表現力を一層伸ばす機会を保障する。たとえば、「複数の文明を比較して共通点を探る」「現代社会における文明のかたちを考察する」といった、抽象度の高い課題への挑戦ができるようにする。こうした取り組みを通じて、生徒一人ひとりがより深く学びに向かうことを目指す。

3. 単元の目標

世界の古代文明や宗教がどのような場所や環境でおこり、どのように発展していったのかを理解する。日本列島における国家形成の過程や、日本の古代国家の成立と、東アジアとの関わりの中で古代の文化や政治がどのように変化していったのかについて理解する。【知識及び技能】

古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。古代までの日本を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。【思考力、判断力、表現力等】

古代文明や日本の国家の形成について学ぶ中で、自ら問いを立てたり、資料から考察したりしながら、学習課題を主体的に追求しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

4. 単元の評価基準

【知識及び技能】

古代文明の特色を、巨大な遺跡と文字や暦の発達に着目して読み取るとともに、宗教が生まれた背景を古代文明の発達との関わりから理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。

【思考力、判断力、表現力等】

古代文明が発生した理由を、農耕や牧畜の始まりと環境との関わりに着目して考察し、共通点に気付き事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

世界の古代文明や宗教のおこりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

5. 単元の指導計画（合計9時間）

時 (本時)	単元構成 各時間の目標	主な学習活動	評価計画（各時間の具体的な評価規 準） 評価方法
第1時	人類は進化の過程でどのように生活を変化させてきたのか考えよう。	環境の変化との関わりから、人類がどのように進化してきたのか理解させる。 日本列島に人類が住み始めた経緯や、旧石器時代と新石器時代の違いを理解させる。	壁画や道具の変化から、人類の進化に関わる情報を読み取り、理解している。 旧石器時代と新石器時代の道具や生活のしかたの違いを理解している。 人類は環境の変化に対応し、火や道具、言葉などを発達させながら進化してきたことを理解し、適切に表現している。 壁画や道具から読み取った情報や、自分なりの考えを発言やワークシートで表現できているかを評価する。
第2時 (本時)	古代文明はどのような特徴があったのか考えよう。	環境の変化の影響を受け、牧畜や農耕が始まり、文明が発生したことを理解させる。 古代文明に共通する特色から、文明が生まれた条件を考察させる。	牧畜や農耕の始まりが、古代文明の誕生につながっていった経緯を理解している。 メソポタミア、エジプト、インダスの文明の特色を理解している。 古代文明が誕生した地域に共通する条件を考察し、適切に表現している。 古代の四つの文明が誕生し発展するうえで共通する特徴について、牧畜や農耕に適した地理的な条件と文字の発達に着目しながら、よりよい社会の実現を考察している。 各文明の特色や共通点について、地理的条件や文字の発達に着目して整理・比較できているかを発言やワークシートやノートで評価する。
第3時	古代の中国はどのように統一されていったのか考えよう。	中国文明の特色を、他の古代文明との共通点から理解させる。 秦と漢の政治のしくみや特色を、広大な領土を支配したこととの関わりから考察させる。	国文明の特色を、他の古代文明の特色との共通点から理解している。 秦と漢の政治のしくみや特色を、広大な領土を支配したこととの関わりから考察し、適切に表現している。 秦と漢の政治のしくみや特色について、領土の広さとの関係を考えながら整理し、自分の言葉で適切に表現できているかをワークシートやまとめて評価する。
第4時	古代のギリシャとローマではどのような政治が展開されたのか考えよう。	古代のギリシャとローマの政治と文明の特色を理解させる。 古代のギリシャやローマで行われた民主政や共和政が、現代の民主政治と異なっていることを考察させる。	ギリシャとローマの政治と文明の特色を理解している。 ギリシャやローマで行われた民主政や共和政が、現代の民主政治と異なっていることを考察し、適切に表現している。 ギリシャとローマの政治や文明の特色について、要点を押さえて説明できているかを発言やワークシートから評価する。

第5時	仏教・キリスト教・イスラム教はどのように起こり、広まったのか考えよう。	仏教・キリスト教・イスラム教の特色を理解させる。 三つの宗教が、それぞれの地域に広まった理由を考察し、理解させる。	仏教・キリスト教・イスラム教が誕生した時期と、それぞれの教えの特色を理解している。 仏教・キリスト教・イスラム教が広まった地域を理解している。 三つの宗教が、それぞれの地域に広まった理由を考察し、適切に表現している。 三つの宗教の誕生時期や教えの特色について、正しく理解し整理できているかを発言やワークシートで評価する。
-----	-------------------------------------	--	---

6. 題材名：世界各地で生まれる文明

7 本時の指導

本時の目標	古代文明の共通点(川の近く・文字・建築物など)を比較しながら、文明が成立した条件について多面的、多角的に考察し、表現する。		
本時の評価規準	古代文明が川の近くで発展した共通点に着目し、文明の成立に必要な条件(地理・文字・農耕など)を考察し、自分の考えを、根拠をもって表現している。(思考力・判断力・表現力) 文明の共通点や「新しい文明をつくるとしたらどこを選ぶ？」に対する問いに主体的に取り組み、ペアやグループでの話し合いを通して、他者の意見を取り入れながら学習を深めようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)		
見方・考え方	文明の成立を自然環境や人々の暮らしの工夫に着目して捉えることで、文明が生まれた背景やその条件について理解することができる。		
	主な学習活動(学習課題・発問)	指導上の留意点	評価規準 評価方法
導入 (5分)	1、ピラミッドの写真を提示し、問題を提起「これは何ですか?」「どこの国のものでしょうか?」と問いかけ、写真から読み取らせる。 2、めあての共有 ピラミッドの規模や場所、人々の関わりを手がかりに、文明の特徴について考えさせ、本時のめあてを捉える。		
めあて：古代文明にはどのような特徴があったのか説明できる。			
展開	3、四大文明の写真や資料を提示し、今でも残っている理由や、後の時代に伝えるための方法を考察させ、本時の学習課題への関心を高める。 ・「こんなに昔のものが、どうして今でも残っているの?」 ・「どうすれば未来に伝えられるのか?」と問いかけ、「文字」の重要性に気づかせる。 ・象形文字や楔形文字などの資料から、各文明が文字を使って考えや出来事を残してきたことを理解させる。	・代表的な資料(ピラミッド、ハンムラビ法典、モヘンジョ・ダロの遺跡、青銅器など)を視覚的に示し、文明の存在感や歴史的価値を実感させる。 ・「なぜ残されたのか?」「何を伝えたかったのか?」という問いを通じて、文明の本質(価値・伝達・記録)に迫るようにする。 ・資料に基づいて多様な考えが出るよう、自由な発言を促す。	
学習課題【考察課題】 自分たちが文明をつくるとしたら、世界のどこを選ぶ?			

<p>展開 (35分)</p>	<p>4、本時の学習課題(学びの手引き)を確認する。 ・文明が生まれた場所には共通点があることに着目させる。(大河など) ・選択肢(ナイル川のほとり、インドの平野部、東南アジア、アンデス、日本列島)を提示し、それぞれの特徴に注目させる。</p> <p>5、課題に対して予想を立てる。 ・「どこに文明をつくるか？」を考え、予想と理由をまとめる。 ・「なぜそこに文明ができそうか？」を考える視点を提示。 例 S:ナイル川は水が豊かで農業ができそう S:インダス平野は広くて町がつくれそう S:東南アジアは暖かくてお米が育ちそう S:アンデスは敵が攻めにくそう S:日本は自然が豊かで住みやすそう</p> <p>6、本時の発展課題を確認する。 発展課題:「文明の成立に必要な条件とは何か?」 ・地理・気候・食料・人の住みやすさ・動物・交易の可能性など、多角的な視点で考えさせる。</p> <p>7、自分の考えを構築する。 【資料から着目すべき点】 S①:気候(暑い・寒い・雨が多いかなど) S②:地形(川・平地・山など) S③:食料(農作物・魚など) S④:人が集まりやすい環境か S⑤:他の文明との比較(ピラミッド、モヘンジョ・ダロなど)</p> <p>・個人または他者と協力して課題に取り組むかを選ばせる。 ・資料や地図を使って場所と理由を説明し、考えをまとめる。</p> <p>・最後に3~4分間の意見共有。よい意見は口頭で紹介。</p>	<p>■指導上の留意点(見方・考え方)</p> <p><u>文明の成立を自然環境や人々の暮らしの工夫に着目して捉えることで、文明が生まれた背景やその条件について理解することができる。</u></p> <p>・文明の成立に関わる条件(地理・資源・生産・人の集まり・社会構造)を、視覚資料と組み合わせで段階的に提示する。</p> <p>・選択肢ごとに子どもの発想を引き出しやすい補足コメントを用意しておく。</p> <p>・個人差や理解度に応じて資料選択や活動方法を調整できるようにする。</p> <p>・子どもの思考が浅くなった場合には、「その土地ではどうやって食べ物を確保する?」「移動や交易はしやすい?」などの追加発問で再び考察を促す。</p> <p>・意見共有では、他の意見に刺激を受けて考えを深められるよう、スライドや発言共有の場を設ける。</p> <p>・評価においては、知識量よりも「根拠をもって場所を選んでいるか」「複数の条件を組み合わせで考えているか」を重視し、表現の仕方にも柔軟性を持たせる。</p>	<p>古代文明が川の近くで発展した共通点に着目し、文明の成立に必要な条件(地理・文字・農耕など)を考察し、自分の考えを、根拠をもってワークシートや発言で表現している。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>文明の共通点や「新しい文明をつくるとしたらどこを選ぶ?」に対する問いに主体的に取り組み、ペアやグループでの話し合いや発言を通して、他者の意見を取り入れながら学習を深めようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>8、振り返りを振り返りシートに記入する。 ※本時の活動を通して、文明の成立に必要な条件や、文明が生まれた背景について、自分が考えたことを言葉にしてまとめる。</p> <p>9、次時の授業の内容を予告する。</p>	<p>・文明はどのように成立し、発展していくのか、またどのような自然環境や社会的要因が関わっていたのかを、振り返りを通して整理させる。</p> <p>・振り返りには、学習課題への自分の考えだけでなく、他の人の意見から得た気づきや、新たに生まれた疑問も書かせるよう促す。</p>	